



日々新聞

第八号

支那の兵三名臺灣を
巡行せしに本國の番人出で彼
至りぬ其村の番人出で彼
西入を海岸へ連ぬる人の
心は白浪の底の藻屑と
無事ゆも市無の論あり被害
せしやもよく本國へ露顯ありて
支那の憤達大なりあはれやうに
一隊を繰出し本國へ
向ふ番人の脱走
ありて行へるを知ら
無詮方此二村を
焼拂一陣の煙と
ありて兵隊を
引し明治五年の
一月のあたる

支那の兵

臺灣を